

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年5月30日(月) NO 196

地域から明るい未来を作ろう

ソフトバンクのCEO孫正義氏は、10代で起業、30年余りで日本を代表する実業家になりました。今回の震災復興に個人資産100億円の寄付を申し出ています。

千チャ 超えねば無いは常識を

存在意義

彼の講演や書いた本を読んでも、今日まで幾多の試練を乗り越えています。勇気と熱い人間性の感動が随所に垣間見れます。

世界の歴史に残る日本の実業家に名を連ねることでしょう。

今回の原発問題にしても、積極的に発言している異色の実業家です。

孫氏は福島原発の事故後、自然エネルギーへの転換を進める必要性を痛感したといい、いち早く自然エネルギー

ギー財団の創設、東日本ソーラーベ

ルト構想を表明するな

ど、いまや脱原発の急先



鋒となっている人物です。

被災地の復興には何年も掛かり、農地もしばらくは使えない状態で何もできないのであれば、太陽発電をすればよ

経営者の皆さんは、何のため

日々頑張るのでしょうか。

自分の欲、借金返済でしょうか。

か。儲けたお金をどう使うか、

先を考えていますか。

焼き尽くす程の情熱

の炎が燃えているでしょ

うか。

山は登ろうとしない限り絶

対に登れない。

目標がなければ、地図とコンパ

スがなければ、道を迷うだけ

です。

会社の理念

地には利(軸)がある。

人には和(愛)がある。

うまくいかないのは何故だ。

どうしてそうなるのですか。

すべての結果に、原因が必ず

あります。

い。また太陽発電だけでなく、風力発電も行う。これらに伴う雇用も生まれるというものだ。普及促進策として、自然エネルギーで発電した電力の全量買取制度の導入についても提案している。これが「東日本ソーラーベルト構想」の概略である。

大きな流れから見ると、長期的に日本の自動車産業に見る、物づくり産業の復活は二度とあり得ないとも断言している。それにしても目を離せない孫氏は日本の希望なのか。「ホリエモン」ではなく、リダーとして救世主になるかも知れない。

孫氏は、迷った時ほど遠くを見よと論じている。そうすればブレか誤差かがすぐ分かり、道が見えてくるという。また人類の産業革命以来の

先の日銀総裁の国債引き受け拒否発言は国家的敗北の最終章のようです。財務省支援の場末劇場の三文オペラでしょうか。

目的と目標は世間と人々の幸せのためにすることでしょう。

そのために地図とコンパスはあ

るのでしょうか。

天には時(タイミング)がある。

失敗は、失敗から学ばないことが本当の失敗です。

学ぶ失敗は、諦めないための、

成功のために支払う最も安い

コストなのです。

他人と時代や社会現

象を理由とし、結果と

原因を評する方もおい

でます。結局は何も解決しな

い。

それで一番の

被害者は敗

者である本

人です。

